

巻頭言

会長就任のご挨拶

野本和幸

今回回らずも会長に選出されて、やや戸惑っています。

日本科学哲学会も、ここ二十年ほどの間、沢田允茂・坂本百大両会長の下、順調な発展を遂げてまいりました。両会長はじめ歴代の役員の方々のご尽力に厚く御礼申し上げます。

不慣れですが、会員の皆様のご協力を得て、手探りながら、新しい世紀の歩みを、進めてまいりたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

21世紀ということに科学哲学上、特別の意味がある訳ではないのですが、20世紀後半から科学・技術の進歩はいよいよ加速するとともに、素粒子論と宇宙論、生命現象と遺伝子情報解析、脳科学とコンピュータ・サイエンスの連動といった、全く未知の分野の開拓とそのグローバルな結びつきとともに、人類の歴史においてこれまで想定されなかった未解決の問題群が出現し、また科学技術が齎す弊害も顕著な形で現れてきています。

ところで恐らく本学会の出発点から既に、「科学哲学」とはどういう意味なのかが繰り返し問われてきたように思われます。それは、科学的な方法論に従う「科学的」な哲学という意味なのか。あるいは、「科学」についていわばメタ理論的な批判的検討を加える哲学の一分野なのか。あるいは科学技術が齎す利益や弊害について検討を加え、場合によっては警鐘・提言までも行おうとする相当に実践的な射程をもつものなのか。恐らく

この少なくとも三つの、どれをもゆるやかに含意しているというのが、実際のこの学会の志だったのでしょう。けれども、最初の「科学的」方法論に従うという点だけでも、何をもち「科学的」と称するのかについて、会員間で大いに意見を異にするでしょうし、さらにはそもそも「科学的」方法論に従う気などはさらさらなくて、むしろそうした「科学主義」的発想そのものを問題にしようといういわば「科学批判的」な考えも相当数の会員によって共有されているかもしれません。そしてさらにゆるやかな暗黙のコンセンサスとしては、何ほどか「分析的」な探究の姿勢、それは「言語分析」に留まらずに、もう少し広く、「概念的な分析」を重視するという姿勢が、相当程度の会員間に認められるかもしれません。「分析的」ということもまた無批判に前提することはできませんが、さし当たって、何の正当化もなしに、議論をいきなり独断的にあるテーゼから体系的総合的に展開してしまうことを避け、そうした出発点の考えなり想定なりを分析し、そうした考えを構成している要因に遡って批判的に吟味するということだとしてみましょう。だがそうした方法的態度は、既に哲学の歴史自身と同じほどに古くからの姿勢なのではないか、と言われれば、それもその通りで、とりたてて「科学哲学」「分析哲学」と称する必要はなく、当たり前の「哲学」でよいのだということになるかも知れません。

しかし哲学の歴史を振り返り、また現在「哲学」と称されている多くの営みが、こうした当たり前の「分析」を欠いてきた、ないしは欠いているのも事実で、「分析」を重視するというだけで、既にひとつの特色なのかもしれません。いずれにせよ、各会員の抱える哲学的課題の探究とともに、時にはこうした自らの属する学会のどこ

か又工的性格も含め、さらにはそもそも「哲学とは?」「科学とは?」「科学哲学とは?」といった素朴かつ根本的な問いについても、活発な議論を期待します。さらには国際的な舞台に向かって、日本からの発信が増大するよう、基礎論学会の欧文誌 *Annals* との連携を探りたいと思います。会員諸氏のご支援を重ねてお願いする次第です。



学会紹介

京都科学哲学コロキウム紹介

小林道夫

京都科学哲学コロキウムについては、『科学哲学』第20号(1987年)に私の同僚の中才敏郎氏による紹介記事がある。今回は、それと一部重複するが、その後の活動を中心に報告しておきたい。

京都科学哲学コロキウム (Kyoto Colloquium for the Philosophy of Science) は、昭和50年に故武田弘道氏(大阪市立大学)、故富川滋氏(近畿大学)、竹尾治一郎氏(関西大学)、神野憲一郎氏(大阪市立大学)などを中心として懇話会の形で発足した(この時、私は日本にいなかったので、この点は中才氏の紹介をそのまま繰り返しておく)。その後、このコロキウムの活動は休まず続けられ、この3月の例会で、実に242回を数えた。会員数は、中才氏の報告には50名余りであるが、現在はその2倍のほぼ100名になっている。

コロキウムの活動は、広い意味での科学哲学を扱うもので、テーマは、例えばヒュームの哲学から心の哲学や量子力学などと多岐にわたる(最近では心の哲学や言語哲学の発表が目立つ)。例会は月に一度京都で行われ(このごろはだいたい「京大会館」) 一回の例会は原則として発表者を一名とし、1時間ばかりの発表の後、コーヒープレイ

クをはさんで質疑応答が2時間ばかり続けられる。これに、二次会が続き、議論がさらに賑やかに重ねられる。発表と議論に十分に時間をかけて、会員相互の哲学的・人間的交流をできるだけ深めようというのがこのコロキウムのスタンスである。

発表者や参加者は主に関西在住の研究者であるが、関西地区以外の会員も少なからずいる。発表は、当然のことながら、新進の若手の会員によるものが多い。最近は特にそうである。しかし、(私は)コロキウムとして中堅や熟練の会員の発表も欠かさないよう努めなければならないと思っている。会員が科学哲学関係の本を著したときには随時、合評会を行っている。会員以外の研究者とは、集中講議で関西に来られたりする折に発表をお願いして交流をはかることにしている。会員以外の研究者との交流はもちろん学会においてできるわけであるが、このコロキウムにおける時間をかけた発表と議論が非会員の研究者とのより親密な交流におおいに貢献しているといつてよいであろう。また、サイエンス・ライターの吉永良正氏をお願いし、「複雑系」について発表してもらったりもした。それ以外に、来日され関西に来られ

た欧米の哲学者の講演会も多く主催ないし共催してきている。その哲学者とは、この5,6年についていえば M. Dummett, R. Rashed, A. Bird, D. Clarke, W. C. Salmon, M. Salmon, J. Agassi, D. Kaplan といった面々である。

その他、中才氏の報告の後の活動で特筆すべきこととして、コロキアムのメンバーによっていくつかの科学哲学関係の本が企画され、それが相次いで出版されたということが挙げられる。その第一は、内井惣七・小林道夫編『科学と哲学』（昭和堂、1988年）で、第二は神野憲一郎編『現代哲学のフロンティア』（勤草書房、1990年）であり、これと同じく神野憲一郎編の『現代哲学のバックボーン』（勤草書房、1991年）が続く。また、この京都科学哲学コロキアムのいわばアネッ

クスとして「科学者と哲学者の会」というのが創設され、これはコロキウムほど頻りに催されてはいないが、科学者（主として物理学者）と哲学者とのより直接的な交流が推進された。なお、コロキウムは、残念ながら会誌の発行にまでは至りえていないが、「ニューズレター」を毎年一回発行し、会員の動静や業績の報告、学会情報の伝達などを行っている。

コロキウムには決まった代表者はなく、司会、事務局、会計が定められている。司会は、1999年度は私、2000年度は中山康雄氏（大阪大学）で今年度（1月から）は斉藤了文氏（関西大学）である。また事務局はずっと大阪市立大学の哲学教室が担当し、土屋貴志、美濃正、中才敏郎の諸氏が事務業務にあたっている。



会計報告

【1999年度決算】

収 入：前年度繰越金	2,168,153
学会費納入	1,997,975
大会参加費	144,000
学会誌売上	129,055
預金利息	649
合 計	4,439,832

支 出：32巻1号製作費	397,000
32巻2号製作費	456,000
『会員名簿』製作費	299,000
ニューズレター製作費	85,000
第32回大会運営費	241,042
通信費	412,660
印刷費	102,350
消耗品費	1,540
委員会交通費	228,000
講演謝金	30,000
事務局費	100,000
アルバイト代・手数料	77,520
小 計	2,430,112

次年度繰越金	2,009,720
合 計	4,439,832

【2000年度予算】

収 入：前年度繰越金	2,009,720
学会費納入	2,000,000
大会参加費	80,000
学会誌売上	100,000
預金利息	1,000
合 計	4,190,720

支 出：33巻1号製作費	400,000
33巻2号製作費	400,000
ニューズレター製作費	100,000
第33回大会運営費	250,000
通信費	450,000
印刷費	120,000
消耗品費	30,000
委員会交通費	200,000
事務局費	150,000
アルバイト代・手数料	100,000
予備費	1,990,720
合 計	4,190,720



(2000年4月1日～2001年3月31日)

日本科学哲学会第9期理事会

第16回

日時：2000年9月9日(土)14:00～15:00

議題：<報告事項>

1. 新入会員及び退会会員について

<審議事項>

1. 名誉会員について

2. 決算案・予算案について

3. その他

(1) 入会申込書について

(2) D.Kaplan 教授講演会について

3. 2001年度の会務について

4. 『科学哲学』第34巻編集委員について

5. 第34回大会実行委員長及び実行委員について

6. 入会申込書の書式について

7. その他

(1) 科研費の欧文誌助成について

『科学哲学』33巻編集委員会

日本科学哲学会第10期理事会

第1回

日時：2000年9月9日(月)13:30～14:00

議題：<報告事項>

1. 第10期評議員、理事、監事について

<審議事項>

1. 会長選出

2. その他

(1) 選挙結果の公表方法について

第3回

日時：2000年6月24日(土)15:00～16:00

議題：1. 『科学哲学』33巻1号(2000.5発行)の編集報告

2. 『科学哲学』33巻2号(2000.11発行予定)の編集経過報告

3. 『科学哲学』34巻1号(2001.5発行予定)の応募論文審査状況について

4. その他

(1) サーヴェイ論文について

第4回

日時：2000年9月9日(土)15:00～16:00

議題：<報告事項>

1. 『科学哲学』33巻2号(2000.11発行予定)の編集経過について

<審議事項>

1. 『科学哲学』34巻1号(2001.5発行予定)について

2. 「ニューズレター」(2001.5発行予定)について

『科学哲学』34巻編集委員会

第2回

日時：2000年12月2日(土)12:00～13:15

議題：1. 総会について

2. 監査報告

3. 第34回大会について

4. 事務局移転について

第3回

日時：2000年12月3日(日)12:00～13:15

議題：1. 編集委員長について

第4回

日時：2001年1月13日(土)14:30～15:40

議題：1. 第33回大会について(報告)

2. 新入会員及び退会会員について

第1回

日時：2001年1月13日(土)16:00～17:45

議題：1. 『科学哲学』34巻1号(2001.5発行予定)について(報告)

2. 『科学哲学』34巻2号(2001.11 発行
予定)について

3. その他

- (1) 審査結果通知状の文面について
- (2) 再審査における「C」判定について

第33回大会実行委員会

第2回

日時: 2000年6月24日(土)16:00 ~ 17:15

議題: <報告事項>

- 1. 特別講演について
- 2. シンポジウムについて

<審議事項>

- 1. ワークショップの企画について
- 2. プログラムについて

第3回

日時: 2000年9月9日(土)16:00 ~ 17:15

議題: 1. 第33回大会プログラムの決定



学会・研究会予告

<国内>

日本科学哲学学会第34回大会

【期日】 2001年11月17・18日

【場所】 専修大学生田校舎

日本哲学会第60回大会

【期日】 2001年5月26・27日

【場所】 学習院大学

科学基礎論学会講演会

【期日】 2001年6月9・10日

【場所】 信州大学松本キャンパス

第21回日本記号学会大会

【期日】 2001年6月2・3日

【場所】 大垣市情報工房(岐阜県大垣市)

【詳細】 <http://www.tara.tsukuba.ac.jp/semiotic/news-letter.html> をご覧下さい。

日本認知科学学会第18回大会合同会議

【期日】 2001年6月8 ~ 10日

【場所】 公立はこだて未来大学

(〒041-8655 北海道函館市亀田
中野町116番地2)

【詳細】 <http://www.fun.ac.jp/jcss2001/>
をご覧ください。

日本生命倫理学会第13回年次大会

【期日】 2001年10月27・28日

【場所】 同朋大学(名古屋市)

【詳細】 事務局(〒108-8345 東京都港区三
田2-15-45 TEL. 5765-6186) にお問
い合わせ下さい

<海外>

**Conference: 100 Years of Russell's
Paradox**

Date: 2001.6.2-5

Location: Munich

Contact: Ulrich Albert, Russell Centennial
Conference, Seminar for Philosophy, Logic
& Philosophy of Science PLW, Univ. of
Munich, Ludwigstrasse 31/I, D-80539
Munich, Germany

e-mail: russell01@lrz.uni-muenchen.de

URL: [http://www.lrz.muenchen.de/
~russell01](http://www.lrz.muenchen.de/~russell01)

**IEEE Society on Social Implications of
Technology**

Date: 2001.7.6-7

Location: University of Connecticut

URL: [http://chortle.ccsu.ctstateu.edu/
istas01](http://chortle.ccsu.ctstateu.edu/istas01)

**Society for Philosophy and Technology
International Conference**

Date: 2001.7.9-11

Location: University of Aberdeen

Contact: Andrew Light, Int. Center for
Advanced Studies, New York Univ.,53
Washington Square S. Rm 401E, New
York, NY 10012

e-mail: alight@binghamton.edu

URL: <http://www.spt.org/>

**Association for Symbolic Logic
European Summer Meeting**

Date: 2001.8.6-11

Location: Vienna

Contact: Logic Colloquium '01, Kurt Gödel
Society, c/o Institut für Computersprachen,
Technische Universität Wien (185),
Favoritenstraße 9, A-1040 Vienna Austria

e-mail: lc2001@logic.at

URL: <http://www.logic.at/LC2001>

**Joint Meeting of the 6th Conference on
Formal Grammar and the 7th
Conference on Mathematics of
Language**

Date: 2001.8.10-12

Location: Helsinki

e-mail: fgmol@csindiana.edu

**13th European Summer School in Logic,
Language, & Information**

Date: 2001.8.13-24

Location: University of Helsinki

Contact: M.Kracht, ESSLLI-2001,II,
Mathematisches Institut, FU Berlin,
Arnimallee 3, D-14195 Berlin, Germany

e-mail: kracht@math.fu-berlin.de

URL: <http://folli.uva.nl/>

**Graduate Student Conference on
Philosophy of Mind, Philosophy of
Language, and Cognitive Science**

Date: 2001.9.28-30

Location: Carleton University

Contact: Alex Wong, Philosophy, Carleton
Univ., Ottawa K1S 5B6

e-mail: phics@carleton.ca

URL: www.carleton.ca/iis/PHICS



訃報

名譽会員の瀬在良男氏が、2001年4月15日に逝去されました。

故瀬在良男氏は、本学会の理事を第1期より第9期まで29年間務められ、とりわけ長年にわたって事務局を引き受けて下さり、本学会の運営と発展のために多大の貢献をされました。

ここに故瀬在良男氏の御生前の御尽力に感謝申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。



寄贈図書紹介

1999年4月1日～2000年3月31日

戸田山和久著『論理学をつくる』

名古屋大学出版会

『紀要 哲学科』第43号 中央大学文学部

ジョン・ボーキングホーン著(稲垣久和・濱崎雅
孝 訳)『科学時代の知と信』 岩波書店



『科学哲学』バックナンバー在庫一覧

タイトル	定 価		
4 (1971年)	1,200円	22 (1989年) 科学と反 - 实在論	1,800円
5 (1972年)	1,000円	23 (1990年) 科学哲学の未来を問う	1,800円
6 (1973年)	非売品	24 (1991年) 異文化理解の基礎	1,800円
7 (1974年) 記号・情報・論理	1,300円	26 (1993年) 科学的説明	2,000円
8 (1975年) 行為の理論	1,300円	27 (1994年) 量子力学と物理的实在	2,000円
9 (1976年) 様相論理学	1,300円	28 (1995年) カオスをめぐって	1,200円
10 (1977年) 心身問題と道徳	1,300円	29 (1996年)	1,800円
11 (1978年) 解釈とモデル	1,500円	特集1 デュエムの科学哲学の現代的意義	
12 (1979年) 言語と非言語	1,500円	特集2 サイバネティクス	
13 (1980年) 社会科学と哲学の間	1,500円	30 (1997年) 近代における科学と哲学	1,500円
14 (1981年) 論理とは何か	1,600円	31-1 (1998年)	1,500円
15 (1982年) 科学哲学の展望	1,600円	31-2 (1998年) 生物学的説明	1,500円
17 (1984年) 合理性とは何か	1,700円	32-1 (1999年)	1,500円
18 (1985年) 志向性について	1,700円	32-2 (1999年) 医療の哲学に向けて	1,500円
19 (1986年) 言語理解	1,700円	33-1 (2000年)	1,500円
20 (1987年) 意識・機械・自然	1,700円	33-2 (2000年) 心・生命・コンピュータ	1,800円
21 (1988年) 私 の同一性	1,700円		

購入を希望される方は、事務局宛ご連絡下さい。(1～3号、16号、25号は在庫切れです。)



事務局からのお知らせ

1. 学会事務局のメールアドレスが、以下のように決まりました。
philsci@comp.metro-u.ac.jp
2. 2000年8月に、出版者著作権協議会より、出版物からの複写に係る著作権使用料として「50,000円」の分配を受けましたことを御報告申し上げます。この分配は2001年度も予定されているそうです。
3. 中山科学振興財団より、「平成13年度褒賞・助成候補者募集要綱」が事務局に届いております。平成13年度のテーマは「人間の科学」です。
詳細は、ホームページ（URL: <http://www.nakayamashoten.co.jp/>）を御覧ください。
4. 2001年度分の学会費をお納め下さいますようお願い申し上げます。貴台の（今年度分を含めた）学会費未納分合計金額に相当する数字が、封筒表面のラベル右下に記載されていますので、同封の振込用紙にてお納め下さいますようお願い申し上げます。なお、「-」表示の方は完納となっております。



編集後記

このあいだまでは、「2000年」とか「2001年」といった年号を見ても、それが自分がいま生きている年のこととは、すぐにわからなかったりしていたのですが、ようやくそれにも慣れてきた今日この頃ではないでしょうか。それでも、「20世紀の哲学」という文句で、すでに終わってしまった時代の哲学を指せるようになるまでには、まだ多くの年月が必要のように思われます。科学哲学という分野はとりわけ20世紀という時代に合っていたのかもしれませんが、21世紀がどのような時代になるのか、私にはまったく見当もつきませんが、「科学哲学は21世紀に生き延びられるか」といった問いが、ひょっとすると切実な問いになるのかもしれませんが。

先にもお知らせしましたように、長年日本大学にお世話になっていました事務局が、東京都立大学に移転いたしました。科学哲学会のためにこれまでずっと献身的に働いてくださった古田智久氏をはじめとする、日本大学の関係者の方々にこころからお礼を申し上げます。1997年からニューズレターを担当するようになりました私自身もまた、「担当」と言うのも恥ずかしいほど、事務局のみなさんのお世話になりっぱなしでした。事務局の移転に伴ってというわけではないのですが、ニューズレターの方も、その担当を野矢茂樹氏にバトンタッチさせていただきます。どうかよろしく。

（飯田 隆）

日本科学哲学会ニューズレター No. 18 2001年5月20日

編集兼発行 日本科学哲学会

事務局 〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学人文学部哲学科内 日本科学哲学会
Fax. 0426-77-2073【宛名「日本科学哲学会」明記のこと】
e-mail. philsci@comp.metro-u.ac.jp

印刷 文成印刷 〒168-0062 東京都杉並区方南 1-4-1